

令和2年京都市はたちを祝う記念式典 二十歳の誓い

私は小学校3年から高校3年まで、ずっと陸上競技部に所属していました。走ることが大好きで毎日練習を続けていましたが、高校生の時突然左肩の痛みに襲われました。恐怖と焦りの中病院へ行き、診察の結果は左第一肋骨の疲労骨折で4週間の安静でした。学校指定の強化部だった陸上競技部でよい成績を上げられずにいた私は、チームに何一つ貢献出来ず、このままチームにいること自体が迷惑ではないかと思い、追い詰められ辞めることを考えながらリハビリを始めました。わけもなく涙がこぼれ、暗い顔をしてリハビリに通う私を救ってくれたのは、柔道整復師の方でした。私のグチャグチャな気持ちを真摯に受け止め、やさしく励ましながら治療をしてくださるのです。難しい専門的なことも一つ一つ丁寧に説明してくださり、治療と共に心もほぐれていき、ケガだけでなくいつのまにか心の傷まで癒してもらいました。

今私は柔道整復師になるための専門学校に通っています。今までやったことのない柔道の指導をうけながら、身体の骨や筋肉の仕組みを学んでいます。柔道整復師の仕事とは、ストレッチやトレーニングなどのリハビリテーションで、薬を使わず患者の自然治癒力を最大限に生かして回復に導く仕事です。震災や災害の中で多くの命を救い、ケガや骨折、脱臼などの治療や心のケアに柔道整復師の方が活躍されたそうです。一人一人の心の思いや変化を感じ取り、患者さんに寄り添える柔道整復師になれるよう頑張りたいと思います。

そしてもう一つここで誓いたいことがあります。高校2年の時母が急性骨髄性白血病で入院しました。その時の私は、母のことよりも自分のことが大切で、本当なら母を支えなければいけない時に遊び回り夜遅く帰宅して周りにとっても心配をかけてしまいました。今お葬式に携わるアルバイトをしています。人生のお別れの瞬間に立ち会っていると、家族の在り方や人間としての生き方が見えてきます。最後に後悔しないよう、二十歳になった今、家族にこれまでの感謝の思いを伝え、一人の大人として自立することも誓いたいと思います。

今日は私たちのためにこのような盛大な記念式典を開催頂きまして、ありがとうございました。心からお礼申し上げます。

令和2年1月13日 新成人代表 寺川亜希